

日本新聞製作技術懇話会
広報委員会編集

編集人 辻 裕史
東京都千代田区内幸町
日本プレスセンタービル
8階 (〒100-0011)
電話 (03) 3503-3829
FAX (03) 3503-3828
<http://www.conpt.jp>

CONPT

CONFERENCE FOR NEWSPAPER
PRODUCTION TECHNIQUE JAPAN

VOL.36 No.2
2012.3.1
(通巻 212号)

日本新聞製作技術懇話会
会報 (隔月刊)
(禁転載)



CONPT-TOUR 2012の見所

日本新聞協会 技術コンサルタント
三宅 順

今年のCONPT-TOURは、4年に一度開催されるドイツ・デュッセルドルフのdrupa展(国際総合印刷機材展)の年ということで、この展示会の視察を中心にドイツとフランスの2新聞社および、その印刷工場(関連会社含む)を訪問する。

海外の最新の新聞製作事情を、デジタルメディアから新聞製作まで幅広く見学する。なお、展示会視察の前にはWAN-IFRAによる「特別セミナー」も開催される。また、今回は旅行予定にドイツの新聞博物館見学も組み込まれている。

<drupa 2012について

(ドイツ・デュッセルドルフ)>

drupaは過去50年以上にわたり大成功を取っている世界規模で開催の印刷総合展示会である。出展分野は新聞製作にとどまらず一般総合印刷の周辺分野であるプリプレス、ポストプレスを包括的に扱う大機材展だ。

業界関係者にとっては最も重要な最新情報収集の場となるだろう。2月24日現在の出展社総数は世界各国から1800社を超える。昨年のIFRA Expoの展示内容がいまひとつだったのも、翌年にこの展示会を控えていたため、

目次

CONPT-TOURの見所	日本新聞協会 技術コンサルタント	三宅 順	2
page2012 展にみる新潮流	(有)メディアテクノス 代表取締役	井上 秋男	5
楽事万歳	山形新聞社 制作センター部長	岡崎 淳	8
会員社レポート	日本新聞インキ(株) 営業部長	平安 喜久	9
	第一工業(株)、富士通(株)		10
	サカタインクス(株)、ニチロ工業(株)		11
JANPS準備部会報告	JANPS 準備部会部会長	矢森 仁	12
第30回新聞製作人新年合同名刺交換会開く			13
JANPS2012 第1回全体会議開く			13
会員消息他			14

- 表紙写真提供：表紙写真提供：CONPT TOUR2011 入選作より
東洋インキ(株)・藤井 公一氏「ミラノの大聖堂」
- 表紙製版：(株)デイリースポーツプレスセンター
- 組版・印刷：(株)デイリースポーツプレスセンター



前回のdrupa2008の展示会場の様子
写真提供:富士ファイルムグラフィックシステムズ
清水教弘氏

メーカーサイドが新規出展を出し渋っていたのではないとも言われており、大いに期待が持てそうだ。展示会では、印刷を中心にプリプレス、オフセット印刷、デジタル印刷、ハイブリッド印刷、製本、紙加工、資材など印刷と関連する幅広い製品や新技術が見られる。中でも今年の注目技術は、「プリンテッド・エレクトロニクス・高機能印刷」、「グリーン・プリンティング技術」、そして前回の展示会で脚光を浴びた「インクジェット」がどれだけ進歩したかであろう。また、展示会とは別に特別企画もある。今回は9つのテーマパークが用意されており、テーマそのものが最新のトレンドであり、印刷・メディア業界の置かれている環境変化を反映していると言われている。例えば、①Print Automation Park (印刷プロセスの最適化、効率化)、②Dynamic Publishing Park (マルチ・チャンネル印刷戦略、ソリューション)、③Printed Electronics/Functional Printing Park (プロセス技術としての印刷)、④Green Printing Park (持続可能な印刷イノベーション)などである。

なお、出展社・内容の詳細については、資料を入手次第、『新聞技術情報』に整理してお届けする。

次に、訪問予定の新聞社2社の見所を紹介する。

<Frankfurter Allgemeine Zeitungと Frankfurter Societäts-Druckerei (ドイツ・フランクフルト)>

Frankfurter Allgemeine Zeitung (フランクフルター・アルゲマイネ・ツァイツング)は1949年創刊、ドイツで最も格調高いとされる保守系の新聞である。実業家や知識人の情報源として定評がある。社名は頭文字をとってF.A.Z.と省略される。

同紙の発行部数は約36万部(2008年)、ドイツ国内では2番目の発行部数を誇る。株式会社組織でFAZIT-Stiftung (FAZIT財団)が93.7%の株を持つ。編集方針は5人の編集者によって決定される。新聞は、毎日、海外148か国に届けられている。2007年までフロント面に写真を掲載しないというレイアウトを採用してきたが、同年10月からはこの伝統的な編集方針を転換した。

現在、同紙はIBMのNICA (Network Interactive Content Access)とHermesのシステムを利用して新聞制作が行われている。

そして、同紙が新聞印刷を委託しているのがFSD (Frankfurter Societäts-Druckerei : フランクフルター・ソシエテーツ・ドウルックライ)だ。同社は3か所の工場を所有するが、今回見学を予定しているのはそのうちの一つMörfelden (メルフェルデン)の印刷センターだ。フランクフルト空港の南、ドイツ最大のアウトバーン交差点の近くに位置し、ドイツでも最大級の印刷工場だ。同工場では、F.A.Z.のFrankfurter Allgemeine, Zeitung-Frankfurter Neue Presseをはじめ、その他30種以上の新聞を受託印刷している。工場の

設備は数年前に一新されて、最新の設備に置き換えられている。

注目は、ドイツ国内最大クラスの最新鋭新聞製作設備のほかに、同工場の環境問題への先進的な取り組みだ。ここでは自然エネルギー利用、省エネ技術、ケミカルフリーなど実践的な技術が見られる。また、珍しい技術としてマトリックスコードによるインクジェットアドレッシング(インクジェット方式の宛名印刷)が行われているという。

<Le FigaroとL'Imprimerie印刷センター(フランス・パリ)>

Le Figaro(ル・フィガロ)は1826年に設立され、フランス国内では最も古い歴史を持ち、Le Monde(ル・モンド)に次いで2番目の発行部数(2005年約33.7万部)を誇る全国日刊紙である。現在の親会社は、2004年以降Groupe Industriel Marcel Dassault(グループ・ダッソー)である。論調は中道右派といわれ、日本の読売新聞社と提携している。社名は有名な戯曲『フィガロの結婚』に由来するという。同社は、デジタルメディアの専門子会社を持っている。それがLe Figaro.frだ。本社とは別のパリ中心

部に社屋がある。

まず、Le Figaro本社を訪問して新聞制作とデジタルメディアの最新状況を見る。特に、Le Figaroの広告営業戦略は注目だ。いわゆる「クロスメディア営業戦略」の最新事情を、システムを含めたハードやソフトとともに見聞きできるだろう。そして、同紙の印刷を委託している準商業印刷の「L'Imprimerie印刷センター」を訪ねる。この印刷センターはパリ市内のTramblay(トランブレール)にあり、2009年イタリアのSeregniとの合弁で設立された。この最新の印刷・発送設備を見学する。ここでの具体的な見所は、水なしオフセット印刷で有名なKBAのCortina輪転機とFerag(フェラーグ)の発送機器の稼働状況だろう。

<新聞博物館(ドイツ・アーヘン)>

最後に紹介するのが新聞博物館だ。この博物館は正式には国際新聞博物館(Das internationale Zeitungsmuseum)といい、1886年に作られて、現在地には1931年に移った。同博物館には17万点におよぶ新聞や印刷物が所蔵され、ここで世界中の新聞の歴史を学ぶことができる。

CONPT-TOUR 2012 日程

月 日	地 名	訪 問 先
5月9日(水)	東京(成田)発 フランクフルト着	
5月10日(木)	フランクフルト	午前 FrankfurterAllgemeineZeitung見学 午後 FrankfurterSocietäts-Druckerei見学
5月11日(金)	フランクフルト → ダルムシュタット → アーヘン	午前 IFRAセミナー(IFRA本部) 午後 国際新聞博物館
5月12日(土)	アーヘン → デュッセルドルフ → アーヘン	終日 drupa展見学
5月13日(日)	アーヘン → デュッセルドルフ → アーヘン	終日 drupa展見学
5月14日(月)	アーヘン → パリ	午後 LeFigaro見学 午後 L'Imprimerie印刷センター見学
5月15日(火)	パリ	午後 研修会 夕刻 さよならパーティー
5月16日(水)	パリ発 →	直行便にて成田へ
5月17日(木)	東京(成田)着	到着後流れ解散

page2012展にみる新潮流

有限会社メディアテクノス 代表取締役 井上 秋男(JAGAT客員研究員)

はじめに

今年最初の印刷・メディア展示会「page2012」が、日本印刷技術協会(JAGAT)主催により2月8日～10日までの3日間、東京・池袋のサンシャイン・コンベンションセンターTOKYOで開催された。第25回の節目となる今回は「PAGEからpageへ-ePowerで新領域」をメインテーマに、「展示会」「基調講演」「カンファレンス・セミナー」「オープンイベント」の4部門で開かれ盛況となった。本稿では紙幅の関連で展示会における新潮流をメインで紹介したい。



6万5000人余りを集めたpage展会場

■開催コンセプト

わが国の印刷産業は、需要減による市場規模縮小やメディア多様化などの影響で取り巻く環境が大きく変化し、従来の価値観やビジネスモデルの大転換が迫られている。page2012は、これらのパラダイムシフトを背景に、次のコンセプトをもとに開催した。①PAGEを小文字のpageに変えることで「時代はマスから個」への移行を明確に示す。②多品種・小ロット・短納期を実現するため「ePower（デジタルとITの力）」を最大限に活用して、新たな付加価値を創造してビジネス

拡大をはかる。③新ビジネス領域として「デジタル印刷、電子書籍、付加価値印刷、ソーシャルコミュニケーション」分野を視野に入れ幅広く展開する。

■開催概要

展示会は、文化会館B、C、Dの3ホールを使用し、出展社124社、488小間、来場者は3日間合計で65,610人規模で開催。昨年の136社、550小間、73,720人より約1割程度減少した。▼基調講演は、デジタルメディアの進化発展に対応して①Google・Yahoo! JAPAN・TSUTAYAの考える電子書籍の世界戦略・国内戦略②出版デジタル機構(仮称)の目指すもの③デジタル印刷成功の法則-印刷のいま、あしたを考える。▼カンファレンスは、6カテゴリー、18セッションによりメディア多様化に向けての具体的な取り組みを紹介した。▼セミナーは、14セッションを開催して様々なヒントにより新ビジネス展開を支援。▼展示会場内の「デジタルワークフローソリューションゾーン」では、アドビシステムズの協力で各種セミナーと各社のプレゼンテーションが行われ盛会となった。▼最新トレンドみどころツアーは、「eパワー活用で小ロットを効率的に」をテーマに業界に精通したツアーコンダクターにより協賛企業を巡り、最新情報やビジネスモデルを解説して好評となった。

■展示会にみる新潮流

①新ビジネスソリューションの提案相次ぐ
開催コンセプトにあるように印刷・メディ

ア業界は大転換期が到来し、マスメディアからスマートメディア、画一大量印刷から多品種小ロット短納期印刷、高性能重視から環境とコスト重視、印刷物と電子メディアとの連動が必要となった。このため、各出展社とも製品紹介に加え、大転換期をスムーズに移行するためのビジネスモデルや成功事例をセミナー、ビデオ、サンプルなどによりソリューション紹介した。

②マルチメディア編集制作の進化発展

スマートフォンやiPadなどのタブレット端末の普及加速化に伴い、昨年までの電子書籍に加え「電子新聞、電子カタログ、電子マニュアル、電子チラシ、デジタルサイネージ」などをサービスするワンソース・マルチユースソリューションと最新技術を活用した「AR(拡張現実)、QRコード、3D、HTML5、DB連携、クラウドサービス」などの出展が増加した。ビジュアル・プロセッシング・ジャパン(VPJ)、モリサワ、スターティアラボ、光文堂、コトブキ企画、コーバック、オープンエンド、グローバルグラフィックスなどが最新バージョンや事例を紹介。また、アドビシステムズは電子雑誌・電子カタログ制作配信ソフト、クォークジャパンは電子書籍作成ソフトの最新版を公開した。

③デジタル印刷機の市場拡大

印刷物の多品種、極小ロット、短納期化対応により市場領域が拡大し、デジタル印刷機の開発進展とデジタル印刷本格化を印象付けた。トナーデジタル印刷機では高速・高品質とプリプレスから後加工まで連動した最新機器が、富士フイルムグラフィックシステムズ(FFGS)、キャノンMJ、コニカミノルタBS、リコージャパン、コダックから実演と多彩な印刷サンプルが紹介された。インキジェットデジタル印刷機は設置スペースの関連で実機出展は少なかったが、セミナー、ビデオ、印

刷サンプルによる最新事例を紹介した。菊判枚葉タイプでは富士フイルムデジタルプレス、大日本スクリーン製造、A3ノビ枚葉タイプは理想科学、デュプロ、メディアコンフォート、ロール紙(連帳)タイプでは、FFGS、キャノンMJ、コダック、UVタイプでは大日本スクリーン製造、ミマキが各々出展した。



目立ったデジタル印刷機の出展

④統合デジタルワークフローによるePower推進

FFGS、大日本スクリーン製造、コダック、日本アグファ、三菱製紙などから入稿から後加工までの自動化、効率化を推進する統合デジタルワークフローの最新版が紹介され注目を集めた。おもに、多品種小ロットに対応した自動多面付け、Web経由での入稿、校正、承認及び受発注とMISとの連携、CTPとデジタル印刷機へのハイブリッド出力などが実演され、印刷業務全体の効率化を推進するソリューションに進化した。

⑤クラウドサービス本格化

新聞界ではクラウドサービスや共有化により「所有から活用」への取り組みが進展している。page展でもコスト削減と顧客サービス向上をはかるため、クラウドサービスの紹介が相次いだ。モリサワはクラウドフォントサービス、三菱製紙は校正クラウドサービス、J SPIRITSはWeb受注サイトのクラウドコンピューティングサービスを出展した。

⑥環境対応、削減化、標準化進展

環境対応と多品種小ロット短納期向けCTPシステムが日本アグファ、FFGS、コダックから出展され注目を集めた。削減ソリューションでは「インク削減」が富士通、FFGS、コダック、CGSジャパン、光文堂から、「廃液削減」がFFGSから紹介され話題となった。標準化ではJapan Colorプルーフ機器認証がFFGS、エプソン、キヤノンMJから紹介され進展が伺えた。また、業界標準のPDF・JDFを活用したワークフローソリューションが主要ベンダーから展示され、最新トレンドみどころツアーでも紹介された。

⑦後加工機のコンパクト・デジタル対応

デジタル印刷や多品種小ロットの進展により、ホリゾン、デュプロからコンパクトな後加工機が出展された。ホリゾンはデジタル印刷対応書籍製本システムの実演や自動無線綴じ機、三方裁断機などの新製品を実演した。DM用封入封緘システムはデュプロ、ペーヴェシステックジャパンが実演した。

⑧総合業務管理システムによる効率化

各業務ごとの原価管理、営業、生産、経理部門の効率化、Web受注などを実現する「総合業務管理システム(MIS)」の最新バージョンが、トスバックシステムズ、J SPIRITS、両毛システムズ、ムサシ、デンセイから出展され、クラウド化による導入・運用コストの削減と利益創出も合わせて紹介した。

⑨Web活用の多様化

インフラとして幅広く活用されているWebを活用して販売、売上拡大を支援するソリューションの出展が相次いだ。キヤノンMJ、大日本スクリーン製造、富士フィルムシンプルプロダクツはDMやチラシの制作支援、コダックはキャンペーンの企画・実施・管理支援を紹介し話題となった。

⑩新聞・出版ソリューション増加

従来のPAGE展は商業印刷主体となっていたが、最近はオープン化やデジタル技術の進展に伴い、新聞・出版メディア向けソリューションが増加している。VPJのユーザーセッションでは、同社がサポートする「WoodWing Enterprise」により新聞編集システムを導入したジャパントイムズの永長制作部長が「多メディア時代における新聞ビジネスの新戦略」と題して講演した。また、キヤノンMJブースでは高速インクジェットデジタル印刷機OceColorStream3500による新聞印刷サンプルを展示し取り組み進展を紹介した。



新聞印刷のサンプルもお目見得

おわりに

page2012が盛況裏に終了したことで業界の関心は、5月3日～16日までドイツ・デュッセルドルフで開催される世界最大の印刷総合機材展drupa2012と、3年ぶりに11月27日～29日まで東京ビッグサイトで開催される新聞製作技術展JANPS2012に集まっている。両展示会ともpage2012と同じく「マスから個」に向けたパラダイムシフトが求められ、「オフセット印刷とデジタル印刷及びICTと融合・連携」した新製品・新ソリューションの出展が期待されている。

樂事万歳

ラージボール卓球によこそ

山形新聞社 制作センター部長

岡崎 淳



ラージボール卓球を始めてから6年になります。町の総合型地域スポーツクラブで「ラージボール卓球」を立ち上げることになり、縁あって指導員を任されたのがきっかけ

です。高校時代に少し卓球をかじり、会社でも卓球部に所属しておりますが、腕前はというと実のところ、試合当日の写真係です。果たして“シドイン”など務まるのでしょうか。不安の中で私のラージボール卓球がスタートしました。毎週木曜日、夜7時半から9時半までの2時間、町の体育館で汗を流します。

発足当時はクラブ員も少なく、体育館の隅っこに台を置き、自宅で卓球ネットの修理が日課でした。知らない人同士の集まりですから、どのような運営方法だと毎週参加してくれるのか、上級者と初心者の垣根を無くすにはどうすれば良いかなど、試行錯誤の連続でした。今では楽しい思い出です。

* * *

一回り大きな球を使うラージボール卓球は、初心者でも気軽に参加できます。健康志向の高まりで、生涯スポーツとして入会する人が年々増え、今では町内外から20人を超えるまでになりました。おかげで限りあるフロアにどう台を並べるか悲鳴を上げています。

年齢制限はなく、手続きをすれば誰でも参加自由です。私が2番目に若く(55歳ですが)上は80歳を過ぎた方まで男女一緒に、ワイワイ言いながら楽しんでます。これまでの人生で「先生」などと呼ばれたことがなかったので、当初は気恥ずかしかったのですが、最近

ではその気になっています。

活動内容は、まず一対一で1時間の練習。どんな練習をするのかは各自で決めます。10分で1台ずつ移動していきますから初心者も上級者もまんべんなく当たります。6年前はラリーが続かず、球を拾っている時間のほうが多かったのですが、今ではビシビシ打ち合いますから、1時間は結構ハードです。休憩を挟んで、後半はダブルスの試合です。これも組み合わせはくじ引きです。

「キヤー」「うおー」「負けだー」とにかく元気です。ミラクルショットには大喝采。「先生、どう打つどしえのや(いいのか)?」「バック教えてけれ」うまくなるにつれ、ますます面白みが増し、向上心に繋がっていきます。決して競技思考のクラブではありませんが、技術の習得に余念がありません。

* * *

こうなってくると上達具合が気になります。年に2回ほど、有志を集め近隣の同じ活動をしているクラブに“果し合い”に行きます。が、定番の返り討ち。帰る車内はいつもどんよりです。「勝でるところさ行くべ」しかし、なかなか思い当たりません。「5年したら相手は歳を取るから勝るべ」こっちは歳を取らないつもりです。「100(歳)までしった(やった)者の勝ったなー」で元気になり、「今度勝つべ」が合言葉です。実際、みんなの腕前は年々上がっており、来年はきっと勝てると思っています。

記録的な大雪の日、車での移動もままならない中、まさに雪をかき分け、12名が来てくれました。頭が下がります。いつもはほとんどの人が“皆勤賞”。2週間も来ないものなら病人扱いされ、顔が現れると「何しったのー」と叱られる始末です。こんなふう「ずっと行きたくなる居心地の良い場所」になるように、クラブを盛り立てていきたいと決意を新たにしています。

夜の7時、開始前のロビーでウォーミング

アップをしているメンバーを見ると、元気を提供しているつもりが実は、元気をもらっているのは自分なんだ、と気付かされます。「先生ッ！なにだったのー」「社長(床屋の店主)が悪いんだべー」今日は“弥次喜多コンビ”に容赦なくスマッシュが飛んできます。

OLYMPIC YEAR

日本新聞インキ株式会社
営業部長

平安喜久



今年、2年に1度の「OLYMPIC YEAR」。7月27日、ロンドンでの開催を今から楽しみにしています。予選中の男子サッカーや女子バレー、女子ホッケー、他にも様々な競技での出場権を手に入れて欲しいと願っています。これまでの大会でも、ミュンヘンの男子バレー、シドニーの高橋選手、トリノの荒川選手など多くの感動や興奮を受けました。

過去、開催された大会をすべて振り返る事は出来ないので、日本国内で開催された3大会を自分史と重ねて振り返ってみたいと思います。

* * *

アジアで初めて開催された昭和39年の「東京オリンピック」。

当時3歳の私には、東洋の魔女や男子体操陣の活躍など競技の記憶は全くありません。ただ故郷九州で旗を振り振り見た聖火リレーをかすかに憶えています。その後、物心ついて何度も見た「オリンピックグラフ」で、日本選手の活躍や短距離のヘイズ選手、マラソンのアベベ選手の事を知りました。

現在上映中の「ALWAYS 三丁目の夕日'64」の時代。故郷北九州市も、「七大都市・

百万都市」と呼ばれ、少しの貧しさ不便さはあったものの、活気と賑わいがあふれていた良き昭和の一時代でした。

アジアで初めての冬季に開催された1972年「札幌オリンピック」70mジャンプでの日の丸飛行隊表彰台独占に大喝采。アイスホッケーやアルペンスキー、ボブスレーなど、迫力とスピード感のある画面に連日貼り付いていました。話題のジャネット・リンさんは、小5の自分にはちょっとお姉さん過ぎましたが。イメージソング「虹と雪のバラード」も大流行、地元九州から遠く離れた憧れの北の都市札幌はどんな街なのかと思いをはせました。28年後その札幌で勤務する事等夢にも思わずに。

* * *

1998年「長野オリンピック」20世紀最後のオリンピックは地元開催でもあり観戦に出かけました。最初に観た競技は女子クロスカントリー。早速ラッパを購入し応援参加。時差スタートの距離競技なので誰がトップか早いのか遅いのか、通り過ぎる選手が何位なのかも全く分かりませんでした。真白い雪に映える各国選手の色とりどりのユニフォームの輝きやお国柄の出た各国の応援を目の当たりにし大興奮しました。続いて見た複合団体は残念ながらメダルに手が届きませんでした。が、地元の応援を受け最後まで諦めずに飛んで走った日本選手の姿にさすがしさと誇りを感じました。

競技後オリンピック広場から見た、透き通った冬晴れ中、白馬三山をバックにはためく五輪旗や各国旗のカラフルな彩りは今でも忘れられません。

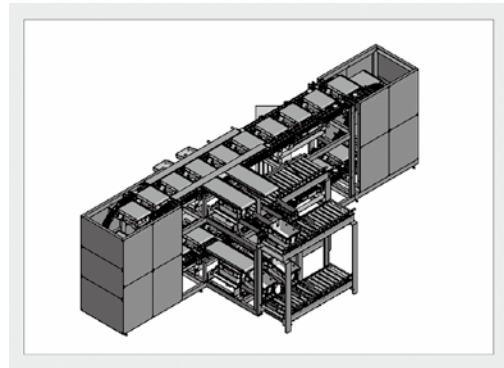
どんなスポーツ大会にも感動はありますが、4年毎開催のオリンピックは特別な大会だと思います。この夏、日本選手が大活躍し多くの号外が印刷されるのを楽しみにしています。

搬送部門発足 50 年

弊社は創立88年を迎えましたが、搬送システム部門としては今年で発足50年を迎えます。この間に、全国の新聞社及び印刷工場に数多く発送仕分システムを納入させて頂いておりますが、書籍取次業界や各郵便局、物流センターへも様々な仕分システムを納入しております。

ここ最近では、最新仕分機器“縦型循環式クロスベルトソータ(P.A.T)”を開発しました。高い仕分能力と省スペース化を兼ね備えており、荷痛みを軽減させ、様々なレイアウト構築が可能です。今年の9月に開催される国際総合物流展に出展し、展示・稼働させる予定でございます。

50年という節目の年にさらなる発展を目指して今後も常に新しい技術とシステム・



縦型循環式クロスベルトソータ (P.A.T)

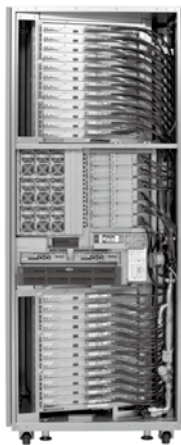
製品の開発を追求していきます。オンリーワン企業として未来が描けるビジョンを持ち、新聞業界の発展に少しでもお力になれるよう前進致します。

第一工業株式会社

人類の夢をかなえるスーパーコンピューター

東日本大震災やタイの洪水など、厳しい環境が続いた2011年でしたが、当社にとって明るいニュースもありました。独立行政法人理化学研究所と当社が共同開発したスーパーコンピューター「京(けい)」が、世界的なスーパーコンピューターの性能ランキング「TOP500」で1位を獲得したことです。

「京」は、2006年から開発を開始、今年11月の供用開始を目指しています。2011年6月には、整備途中だったにもかかわらず、2位(中国国立スーパーコンピューターセンター)に3倍以上の差を付けてトップに立ち、整備が完了した同年11月には、その差は4倍以上に広がりました。



「京」は、1兆の1万倍を表す数の単位で、このコンピューターが1秒間に処理できる計算の回数を表しています。コンピューター用語では10ペタ(ペタはテラの千倍、ギガの百万倍)となります。

「京」は、神戸市のポートアイランドにある、理化学研究所の計算科学研究機構という施設に設置されています。本稼働後は、さまざまな研究機関などがこれを利用して、医療、気候、環境、宇宙、新素材などの研究に活用していく予定とのことです。

(左写真は「京」のシステムラック。1ラックには約100個のCPU(1CPUは8コア)が実装されており、「京」はこのようなラック800本あまりで構成されている)

FUJITSU 富士通株式会社

時代の変化とニーズを 見つめて未来を拓く

SAKATA INX...
Visual Communication Technology

サカタインクスは、一世紀を超える歴史の中で、常に印刷情報産業の発展に寄与し、その技術革新に貢献することを最大の使命としてきました。当社のビジネステーマ「ビジュアル・コミュニケーション・テクノロジーの創造」に沿って、グローバルインキメーカーとして、環境配慮型印刷インキを国内はもとより世界の主要国に提供、また、印刷のデジタル化に合わせ、最適なワークフロー提案とともに、デジタル印刷用インキも世界各地で販売しております。

る、また、国内の広告市場が変化する中、最高の品質を実現する高発色インキ「ルーチェ」の提案や、新聞製作システムの上流から下流までの色に対する管理を行う「カラーマネージメントシステム」の提案を行っております。

さらに、印刷の基礎から制作業務の標準化、最新の技術動向から業界トピックスまで、広く学べる「INX新聞業界スクール」により、新聞社の工場経営に重要な役割を果たし、新たな事業展開の足がかりとなる人財の育成を進めています。

一方、新聞界への取り組みとして、高精細化・用紙減斤化等の制作環境の変化に対応す

サカタインクス株式会社

常に新しい発想で 開発に取り組みます

1950年に日魯漁業(現マルハニチロホールディングス)のグループ会社としてスタートした弊社も、2010年に創業60周年を迎えました。この間産業機械一筋、様々な機械の開発及び販売を手がけてきましたが、そこで得たノウハウを活用して新聞発送システムを開発し、日本でも数少ない新聞発送システムの専門メーカーとして、新聞発送現場の省力化、近代化に貢献すべく、システム開発に邁進してまいりました。その結果、幸いにも新聞社各社のご愛顧を頂戴することができ、現在に至っている次第であります。また、2008年にはISO14001を取得し、環境に配慮した製品

の開発も進めております。

新聞印刷を取り巻く環境はここ数年で大きく変化しています。今までと同じ考えでは、時代に取り残されてしまうのは明らかです。弊社は、これまで培ったノウハウをもとに刻々と変化する新聞発送現場のニーズに対応すべく、さらなる前進を続けてまいります。

今年はJANPSが開催される年でもあります。諸事情により実機を展示することが年々難しくなっておりますが、それでも弊社は実機展示にこだわり、今年もカウンタースタッカー、包装結束機等の主要機器はもちろん、前述した環境配慮製品や新製品の実機を展示致します。過去の実績に安住することなく、常に新しい発想でシステム開発に取り組む弊社の姿を、今年11月のJANPSで新聞社各社にお見せしたいと思っております。

梱包機と発送システムの
ニチロ工業株式会社

新聞社参加など新規4施策 着々と

JANPS準備部会報告

JANPS準備部会部会長

矢森 仁

欧州の金融財政危機を発端とした世界的な恐慌、超円高による国内製造業への打撃と厳しい経済情勢を踏まえ、そして未曾有の震災であった「東日本大震災」を経て、本年は「JANPS」の年を迎えます。新聞業界に於いても、幾多の試練と、逆に、インフラが破壊され、通信が途絶えた震災下では「紙媒体」による「新聞力」とそれを支える新聞社の「現実」を市民に伝える「報道力」がクローズアップされた昨年でも有りました。前回JANPSより、貴重な3年の経験を踏まえて、そしてメディアの「長」たる新聞業界が新しい時代の新聞メディアを活性化し、新聞の新たな技術を革新すべく、JANPS2012を開催致します。

今回の開催に向けては、より拓かれ、より活性化された展示会を目標に、新たな「4つの施策」を掲げて「JANPS準備部会」の活動を展開して参りました。

施策の第一は、「新聞社の出展参加」です。新聞業界全体の活性化の為、新聞製作技術を担う、日本新聞製作技術懇話会(CONPT)所属のメーカーだけではなく、今回は主催者である日本新聞協会に属する、全国の新聞社にも積極的な参加を呼びかけ、ユーザーサイドからの出展をお願い致しました。まずは、前回初陣を切って「出展」戴きました「産経新聞社」様他、「朝日新聞社」「読売新聞」「日本経済新聞社」「毎日新聞社」様から出展のご意向や問い合わせを戴くなど、積極的な反応を戴く事が出来ました。

施策の第二は、「研究レベルの先端技術の紹介」として次世代新聞技術を担う、大学研

究室への出展誘致です。IGAS会場や、新聞社OB等、様々なルートでアプローチし、現在は千葉大大学院・融合科学研究科・像感性工学研究室、融合科学専攻・画像マテリアル等から出展の要望が出ており、その他大学研究室へも勧誘活動中です。

施策の第三は、「海外からの来訪者の積極誘致」です。昨年10月のIFRA展にて、JANPSの紹介・招聘のパンフを配布し、更に英文PDF勧誘チラシを配布する予定ですが、IFRAから、今年春に企画されていた「日本研修ツアー」を、JANPS開催日に合わせて企画を変更するなど、展示会への参加意思の通知が有りました。展示会場のご案内の他、国内最新鋭新聞印刷工場の見学などの企画を検討中です。

最後の第四の施策は「展示の多様化」です。前述の各出展を素材に、将来技術動向や複数社のコラボによる提案等を「創作したテーマ」に沿って、多彩に演出しようと言うものです。JANPS2012の企画に際しては、一昨年9月22日に、新聞協会と新聞懇話会が合同で会合を開き、「JANPS検討部会」を設立し、新聞社各社と機材メーカー各社が各々討議を重ねて参りました。懇話会ではこれに先立ち今日に至るまでにIGAS事務局や新聞博物館との意見交換も含め、十数回の関係者討議を重ね、昨年4月には「JANPS2012基本計画書」初版を作成。7月には新聞協会にて「JANPS統一テーマ」が決まり、それを受けて9月に懇話会にて「出展案内」を作成しました。これに基づき10月の新聞大会会場での全国技術委員会会合にて出展要領のご説明と改めての新聞社各社への出展誘致を要請致しました。

展示会出展社数やコマ数に関しては、3月と10月に2度の「出展アンケート」を取り、具

現化に向けて着実に進めております。

JANPSのウェブも開設致しました。

これからはよいよ最後の追い込みに掛かります。2月7日に開催予定の全体会議で「出展要領」を配布すると共に、出展説明会を開催しました。9月の全体会議では出展社による小間割を決定し、出展予定各社に通知する予定です。海外来訪者の受け入れその他、まだまだ準備を進めねばならない事項が多々残っておりますが、準備部会として最後まで活動して参りますので、是非皆様の積極的なご参加をお願い致します。新聞市場に明るい将来を導き出そうではありませんか。

2012年の復活に期待込め 第30回新聞製作人 新年名刺交換会開く

新年恒例の新聞製作人名刺交換会は、1月13日午後3時半から日本プレスセンター10階ホールで開催された。日本新聞協会との共催のもと新聞社関係52社から93人、懇話会関係39社187人、事務局10人の290人が出席した。出席者は新年の挨拶を交わすとともに、午後5時過ぎまで2012年に懸ける抱負や意気込みを語りあった。

末本利樹新聞協会技術委員長が挨拶に立ち、「新聞界をめぐる環境が厳しいといわれて随分経つ。コストカットと委託印刷、共同輸送、システム共用化などでなんとか乗り切れてきているが、今年のJANPSにはCONPT加盟各社のコラボ展示を期待している。また新聞社には魅力ある出展をお願いしたい」と新聞社、CONPT双方に協力を求めた。「昨年の新聞発行総部数は4,834万部まで減ったとはいえ、まだ5,000万部近い部数がある。記事で競争しつつ製作部門で協働し、新聞製作の船を沈めてはいけない」と強調した。

次いで芝則之会長が、「明るい話がないが、

CONPTメンバーで暗いムードを吹き飛ばしていきたい」と意気込みを示した。「今回のJANPSには5、6社の新聞社が参加の意向を持っており、ぜひ盛り上げていただきたい。期間中IFRAからはスタディツアーを派遣してくれる。日本の進んだ自動化工場の視察、大震災被災地の復旧復興を見たいとのことで、見学先となる新聞社、工場のご協力をお願いする」さらに「5月にはデュッセルドルフでdrupaがあり、CONPT-TOURを計画している。お誘いが間もなく行くと思うので、奮ってご参加をしていただきたい」と今年の重要イベントを紹介した。

消費税アップ問題にも触れ「新聞社側が購読料に上乘せするのかどうか、大きな関心を持っている。設備投資にとっては値上げになるので、生き残りという観点から知恵を出し合っていきたい」とした上、今年が回復の年だったといわれるようにと、出席者に協力を求めて挨拶を結んだ。

早川正技術副委員長の乾杯の発声で宴が始まり、あちこちに交歓の輪が広がった。中締めは藤間修一懇話会副会長で、三三四拍子の元気な三本の手締めでお開きとなった。



JANPS2012 第1回全体会議開く

今秋11月27日の開幕を前に、JANPS2012の第1回全体会議を2月7日午後日本新聞協会8階会議室で開いた。今回初めての出展をめざ

す朝日、読売、毎日、日経(欠席)の各新聞社と、前回に続きブースを出す産経新聞社の総計7名のほか、会員社32社から45名、新聞協会4名、事務局を務める科学技術館の3名など多数が出席した。

芝運営委員長は挨拶の中で、前開催から3年間と間隔の開いた分、エネルギーがたまっているはずで素晴らしいJANPSにしたいと述べた。主催者を代表して富田新聞協会編集制作部長は、ポスターやホームページの制作日程を早めるなど準備が進んでいる状況を説明した。

CONPTでは昨春から準備部会がスタートし、4つの新規施策を掲げており矢森部会長から説明があった。村松副部会長からは、パワーポイントを使ったJANPSの歴史やアウトラインの説明があり、分かりやすいと評判だった。

科学技術館が予定小間代や注意事項などの要項が掲載された「出展の案内」を詳細に説明し、第1回全体会議・出展説明会を終えた。第2回は9月に開催を予定しており、小間割りを含む具体的なJANPS2012の全体像が固まる。
(CONPT事務局)

CONPT 日誌

- 1月13日(金)第30回新聞製作人新年合同名刺交換会(於日本プレスセンター10階ホール290余名出席)
- 1月19日(木)広報委員会(出席9名)
- 2月7日(火)評議員会並びに第4回JANPS運営委員会(出席10名、新聞協会2名、科学技術館3名)
JANPS2012第1回全体会議
(於日本新聞協会8階会議室、65名出席)
- 2月9日(木)クラブ委員会(出席4名)
- 2月14日(火)企画委員会(出席11名)
- 2月16日(木)広報委員会(出席10名)

会員消息

■退会

* (株)イリス(12月31日付)

■担当者変更

* 富士薬品工業(株)(1月23日付)

[新]新井 信夫氏(営業第三部部长)

[旧]瀧口 英司氏(営業第三部部长)

* 清水製作(株)(2月15日付)

[新]清水 英則氏(営業企画部)

[旧]藤原 秀一氏(営業企画部第一部长)

■新会友

* 小股 文雄氏(東芝ソリューション(株))

■所在地変更

* (株)インテック(2月13日付)

(〒136-8637)

江東区新砂1-3-3

(TEL: 03-5665-5059)

新着資料

(国内)

* 日本新聞協会“新聞技術” No.218、
“NSK経営リポート” No.11 “NIEニュース”
第66号、“新聞広告報” 747号

* 富士フィルムグラフィックシステムズ
“FGひろば” Vol.150

* 日本IBM“無限大” No.130

* インテック“季刊インターリンク”第18号

* 三菱重工業“三菱重工グラフ2012” No.166

(海外)

* WAN-IFRA “IFRA Magazine” 1～2月号

◆JANPSサイト開設

第21回新聞製作技術展(JANPS2012)紹介サイトを新聞協会サイト配下に開設いたしました。<http://www.pressnet.or.jp/janps/>
3月より、月2回程度更新し、出展社の情報等を掲載していく予定です。